

Histological characteristics of the myometrium in the postpartum hemorrhage of unknown etiology  
-A possible involvement of local immune reactions-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2015-08-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Farhana, Mustari メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10271/2876">http://hdl.handle.net/10271/2876</a>

博士(医学) Mustari Farhana

論文題目

Histological characteristics of the myometrium in the postpartum hemorrhage of unknown etiology -A possible involvement of local immune reactions -

(原因不明の後産期出血症例における子宮体部筋層の組織学的特徴-局所免疫応答の関与の可能性について-)

論文審査の結果の要旨

母体死亡の主要な原因である後産期出血の原因の約 70%が子宮弛緩症によるものである。子宮弛緩症の原因には、妊娠中の過度の進展や分娩時の子宮筋疲労などがあるが、それら以外で重要な原因として臨床的羊水塞栓症が挙げられる。臨床的羊水塞栓症では、羊水・胎児成分に対する母体の免疫反応が関与することが示唆されており、当講座は母体の血清において補体系が活性化されていることを既に証明した。本研究では、原因不明の子宮弛緩による後産期出血例における子宮筋層内の局所免疫反応を明らかにするために、炎症性細胞と羊水・胎児成分を免疫組織学的に同定することを試みた。

原因不明の後産期出血の子宮検体(34例)とコントロールとしての正常子宮筋生検検体(33例)に対し、HE染色とアルシアンブルー染色を行うと、原因不明の後産期出血の子宮筋層内において、間質に炎症性細胞浸潤と浮腫が認められた。そこで、抗C5a受容体抗体(アナフィラトキシン受容体)、抗トリプターゼ抗体(肥満細胞)、抗エラスターゼ抗体(好中球)、抗CD68抗体(マクロファージ)、抗CD3抗体(T細胞)を用いて免疫組織染色を行うと、コントロール群と比較して、原因不明の後産期出血の子宮筋層内において、C5a受容体陽性細胞、肥満細胞、脱顆粒している肥満細胞、好中球およびマクロファージ数が有意に増加していることが明らかになった。さらに、抗ZnCP- I (meconium-specific zinc coproporphyrin I)抗体を用いて、羊水・胎児成分の存在を検討したところ、原因不明の後産期出血の子宮筋層内において陽性所見が認められた。以上の結果は、羊水・胎児成分により生じた子宮筋層内の急性炎症反応と浮腫が、子宮平滑筋の弛緩を引き起こした可能性を強く示唆した。審査委員会は、上記の研究結果を原因不明の後産期出血の原因解明につながるものと高く評価した。

以上により、本論文は博士(医学)の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 岩下 寿秀

副査 鈴木 哲朗

副査 平川 聡史